
うちのポケモンが可愛い件について

ごむぼーる=

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ウチのポケモンが可愛い件について

【Nコード】

N7326Z

【作者名】

「むぼーる」

【あらすじ】

作者は初めて小説を書くため、期待しないでください。主人公のキャラがぶれぶれかもです。誤字脱字あるかもしれません。内容がつまらないかもしれせん。以上のこと踏まえてお読みください。

カイ君の旅物語

〈第一話〉

ここはジョウト地方の小さな町、ヨシノシティ

「……………もう今年で8歳か」

浜辺に座り、空を飛んでいるポツポの群れをぼろっと見ながらそ
う呟いたのが、黒髪黒目のどこにでもいるような少年 カイ であ
る。

「どうして俺はこの世界にいるんだろ…」

本名 伊島 快 元々は日本の某高校に通っていたのだが、気がつ
いたらこのポケットモンスターの世界にいた。

目が覚め、初めに目にはいったのは見覚えのない天井と、コチヲを
優しそうに見つめる女性だ。

俺はいきなりの展開に戸惑った。

なにせ見知らぬ場所で体も動かせず、言葉を話そうしても出てくる
言葉は「あうあうう…」

、さらに何やら女性が微笑ましそつにこちらを見ているではないか。
正直何が何だかわからなかった。

そんな呆然としている俺をその女性は抱き上げ、あるうことが自分の胸をさらけだし俺の口に押し付けてきた。

(ちよっ！やめ、やめろ！)

そんな俺の心など嘲笑うかのように口はそれに吸い付いてしまふ。

ちよっぴり嬉しかったのは内緒だ。

やがて体が満足したのか口を離したと思つたら、急激な眠気に襲われた。

(あつダメだ、メチャ眠い…)

勿論、眠気に負け爆睡してしまったのは今に思えば仕方がないことだと思ふ。

なんたつてその時俺はまだ1歳だったのだから。

そんな寝ては飲み、オムツを取り変えられと羞恥プレイを繰り返してらるうちに分かったことがあった。

それは、この世界にポケモンがいることだ。

始めて見たときは驚いた。

「おはようカイ！私となりにいるのは私がトレーナーだったときからの相棒の玉藻ちゃんだよ。よろしくね。」

「クウーン……」

いつもの女性の横に、クリーム色をした綺麗な毛と九つの尻尾、そして透き通るような紅い瞳を持つ生き物がいる。

そんな美しい姿に目を奪われた。

俺は多分その生き物を知っている。

(えっ！…もしかしてキュウコン！！)

そう、ポケットモンスターと言うゲームに出てくる生き物が今、自分の目の前にいた。

『ポケットモンスター』縮めて『ポケモン』

日本の子供なら大半は知ってるしゲームもやったことがあるだろう。

(と俺は思う！)

まあ、別に努力値だとか個体値だとかそんな細かいところまではやっていないが、俺もプレイしたことがある。

そんなゲームのなかの生き物が現実にいるのだから、驚くのも無理はない。

幼児化、現実にいる筈もない生き物

カイも薄々は気付いていたがこれで認めざるをえなかった。

(異世界転生か……なんか二次創作でありがちな展開だな……)

そんなことを女性(多分母親だろう)に頭を撫でられながら考え

カイは小さく、深いため息を一つついた。

空はもう茜色に染まっている。

後30分もしないうちに辺りは真っ暗になるだろう。

どこからかヤミカラスやホーホーたちの鳴き声も聞こえてくる。

「カイ……！ そろそろご飯だから家に帰ってきなさい！！」

自分がこの世界で目覚めたあの日からもう7年程たった。

そんな自分の昔のことを思い返していたら、遠くから母親の声が聞こえてきたのでそちらを向いた。

「はい！ 今いくよ……！」

そんな元気な声で母親の返事をして、立ち上がり、ズボンについた砂を払いながら母親の方に走っていく。

カイは母親であるミナの隣に並び、歩く。

「今日のご飯はなに？」

「今日はシチューにしたの。お父さんもそろそろ帰ってくる頃だから、それまで待てましょうね。」

「うん！ わかったよ！」

カイの父親のカズキはコガネシティのラジオ局で働いている。

昔、カズキはエリートトレーナーとしていろいろな地方を巡っていた。

それ故、カズキの手持ちのポケモンはそれなりに強い。

だから多少距離があろうともカズキのトレーナー時代の手持ちであるクロバットの「そらをとぶ」ですぐに帰って来れるだろう。

「父さん、早く帰ってくるといいね。」

「そうね、早いといいわね。」

そんな仲のいい親子らしい会話をしながら二人は帰宅するのだった。

家に帰るとそこには父方の爺ちゃんと婆ちゃんがリビングでゆっくり

りお茶を呑んでいた。

「おお お帰りカイ。また浜辺に行ってたのかね？」

「うん 爺ちゃんもまたトレーナーを案内してたの？」

「ホツホツホ！ それが今のワシの楽しみじゃ。」

ウチの爺ちゃんはかわった趣味がある。

それはこのヨシノシティの案内だ。

ポケモンセンターやフレンドリイシヨブ、俺のお気に入りの浜辺まで
いろんなところを案内しては、付き合ってくれたお礼といい、ラン
ニングシューズなどをあげている。実はこのランニングシューズは
非常に走りが速くなるため俺も愛用している。

新人トレーナーには嬉しい品物だ。

「ただいま！」

そんな他愛もない話をしているうちに父さんが帰ってきたようだ。

「お帰り！」

「お帰りなさい」

「さあ カズキが帰ってきたことですし、そろそろご飯にでもしま
しょうか。」

そんなことを婆ちゃんが言う。

俺も賛成だ

非常に腹が減った！

「そうですね。カイ、料理運ぶのを手伝ってくれる？」

「うん！ 今いくよ」

手を洗い、俺は台所に向かう。

台所からはシチューのいい香りが漂ってくる

「はい 気を付けて運んでね。」

そうやってミナはシチューのたっぷり載ったお皿を運ぶように言う。

それをさっきまで爺ちゃんと婆ちゃんがお茶をしていたテーブルに運んだ。

シチューにはジャガイモ、ニンジン、鶏肉、玉葱など様々な具材が入っていてとても食欲をそそられる。

「おお 旨そうだな！」

「美味しそうじゃなくて美味しいのよ！ 私が作ったんだもん。」

「確かにそうだ！ ミナの作った料理はなんでもうまい！！」

「もう カズキさんたらっ / /」

のろける父、頬を赤らめ俯く母、それを見て笑う爺ちゃんと婆ちゃん

(本当、ウチの家族って仲いいよなー)

俺はキュウコンの玉藻にポケモンフーズをあげながらそんなことを
思っただった。

「それじゃあ そろそろご飯にでもしましょうか?」

「では、いただきます。」

「「「「いただきます!」」」」

それではと、さっそくシチューを一口頬張る。

(美味しい! 特にこのジャガイモがホクホクしていて、また玉ねぎ
もとろとろに「「そういえば カイもそろそろ9歳だよな?」

俺がシチューについて熱く語っていると、途中で父さんに声をかけら
れた。

「うん。 そうだよ! でもどうしたの急に?」

「いやなに、そろそろ旅に出るのか出ないのか決めてもらおうと思
ってな。」

色々準備しなきゃいけないし、教えなきゃいけないこともあるしな。」

この世界では10歳になると旅をすることができる。

別に強制ではないので、いかなくてもいいのだが

まあ不本意だが、せっかくポケモンのいる世界に生まれたのだから、トレーナーになって世界を旅してみたいと言う思いもある。

しかし、少し怖いのも事実。

現実にはゲームみたいに甘くない。

ポケモンだって人を襲うときがある。

ポケモンの技を人がくらった時にはただでは済まないだろう。

……でも

……やっぱり

「……見てきたい。自分の目で世界を見てきたい！一人は少し不安だけど頑張ってみるよ！父さん！！」

そう、やっぱり見てみたい、肌で感じてみたい、ゲームではなく現実でこの世界を感じてみたい。

ジムにも挑戦したいし、いろんなポケモンのことも知ってみたい、ジョウトだけでなく他の地方にも行ってみたい。

今までやりたいことなど無かったけど、旅に出ると決めてから、や

りたいことが一気に増えた。

「……そうか……わかった！　じゃあこの一年で旅に必要なことを教えてやる！」

「ありがとう！　頑張るよ！！」

「あとポケモンも用意しないとな！」

「うん！」

そんな俺たちの会話を母さんと爺ちゃんと婆ちゃんは微笑ましそうに見ていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7326z/>

ウチのポケモンが可愛い件について

2011年12月24日10時50分発行